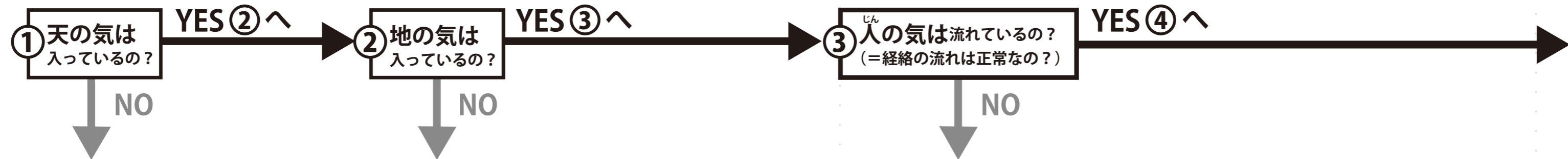
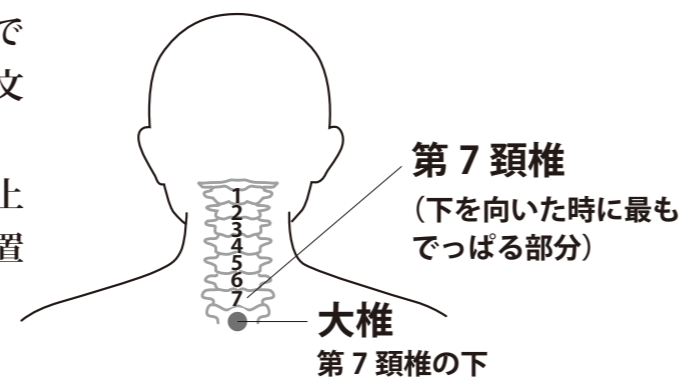


## < 基本的調整 >

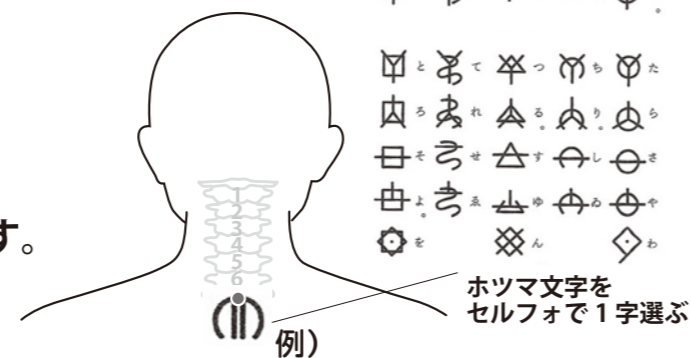


天の気が入っていなかったら、セルフオで調べて、大椎（第7頸椎）あたりに古代文字を描きます。  
 ※地の気も、天の気と同じで、いったん上がって落ちてくるので、天の気と同じ処置をします。

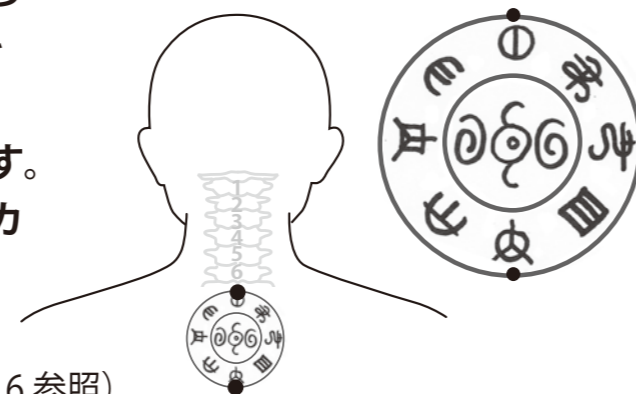


背骨上の首の高さを、「ツボはある？」と聞きながら、上からと下からと順になぞって調べていきます。

上からと下からとなぞっても、同じ箇所セルフオが開いたときは、ツボが点で存在しています。  
 →ホツマ文字（P16参照）を描きます。



点と点が重ならず、幅（高さ）があったときは、→大椎の周辺にフトマニを描きます。  
 ①その2点を直径として、円を描きます。  
 ②そのなかに、フトマニ図の「トホカミエヒタメ」を描きます。



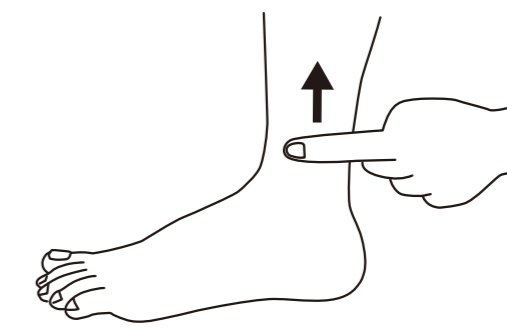
※菱形+龍体文字の場合もあります。(P16参照)

「流れの悪い経絡はどこ？」  
 肺？大腸？胃？脾？心臓？小腸？膀胱？腎？心包？三焦？胆？肝？  
 ※セルフオに力が入った所が、流れの悪い経絡となります。

その経絡の流れを正常にするツボは、「足にある？」 「手にある？」  
 YES YES  
 足のくるぶしから指先まで？ 手首から指先まで？  
 くるぶしから膝まで？ 手首から肘まで？  
 膝から股関節まで？ 肘から肩まで？

NO  
 胸？腹？背中？首？頭？と聞いていきます。その箇所にツボがあるので、セルフオで位置を調べていきます。  
 人差し指でなぞりながらセルフオでツボの位置を調べていく (P16参照)

前面？ 後面？ 側面？  
 内側？ 外側？  
 仮に「足の前面、外側」と出たとします。それは胃経です。(P.10参照)



セルフオでツボの位置を調べていきます。  
 ツボが点で存在→ホツマ文字  
 ツボが面で存在→龍体文字

P.16~17参照

文字を描いたら、ツボの位置にプラズマ棒を当てます。「取ってもいい？」と聞きます。→YES プラズマ棒は不要で、文字を描いただけで解消したということです。

NO  
 プラズマ棒での補寫が必要ということ。棒を当てて「太祝詞を3セット」唱える。だいたい3セットで消える。「取ってもいい？」とさらにセルフオに聞いて、それでは足りない場合は、5セット、7セットと奇数回で増やしていきます。